

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

- 日 時 令和5年1月28日（土） 午後2時～午後3時40分
- 開催方法 ハイブリッド開催
〈現地参加会場〉鳥取県健康会館 鳥取市戎町
〈オンライン参加〉
- 出席者 20人
廣岡部会長、山口委員長
大田・岡田・工藤・來間・小寺・小林・鈴木・前田・宮脇・山根・萬井・若林各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：上田課長補佐、坂本保健師
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、梅村主任、井上主事

【概要】

- ・令和3年度実績は、受診者数17,631人、受診率は16.2%で、前年度より2.1ポイント増加した。要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度において国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。
- ・令和3年度の乳癌確定症例は80例であった。前年度の96例に比較して減少していたが、例年並みであった。中部地区での発見症例がやや増加していた。
- ・病期に関しては65.0%が早期癌症例であり、前年度の66.7%とほぼ同様であった。40歳代の初回受診者からStageⅣ症例が1例認められた。
- ・術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が34%であり、近年この比率が続いている。
- ・各地区読影会実施報告（令和4年12月末現在）は、CAT3以上が東部4.44%、中部

5.67%、西部7.15%だった。

- ・令和元年度から3年度の受診者数、受診率を市町村ごとに比較し、市町村へ聞き取り調査を行った。医療機関検診では、他部位に比べて受診制限等の影響はなかったが、令和2年度はコロナによる受診控えが一定数あった。令和3、4年度にかけて受診率が回復傾向にある。乳がん検診は隔年受診であることから、コロナ禍以前から、受診率の上下がある市町村も複数ある。
- ・令和3年10月1日に国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、「がん検診の対象者自身が、がん検診の利益・不利益を考慮した上で受診を検討することが望ましい」との記載が追加された。本県でも、各がん検診実施の手引きにこの旨を追加していく。今後周知していくにあたり、がん検診の利益・不利益の具体的な説明内容について協議した。
- ・国立がん研究センターが令和3年の75歳未

満がん年齢調整死亡率を公表した。鳥取県の男女計の死亡率は、令和3年は68.1（前年68.6）で28位（前年23位）となり、2年連続で、県がん対策推進計画の目標値（令和5年死亡率70.0未満）を達成した。

挨拶（要旨）

〈廣岡部会長〉

本日は10年に1度の大雪となり、急遽ハイブリッド形式での開催とした。ここ1年、100年に1度や10年に1度の災害と言われることが多く、自然災害が増えているように感じる。本来ならば8月に部会及び従事者講習会を開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。未だ、新型コロナウイルス感染症の影響により、がん検診の受診率が完全には回復していない。しかしながら、どの様な状況であっても、癌は発生する。大変な状況かとは思いますが、本日の会議で審議していただき、検診の回復に向けていきたいと思う。

〈山口委員長〉

本日は県内全体がかなりの大雪であり鳥取市内は今も吹雪いているが、この様な状況の中、会議にご出席いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響により、検診受診率が低下したが、今年の5月には現在の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行するので、引き続き受診勧奨を行い、受診者が増えればと思う。本日は活発なご意見を願います。

協議事項

1. 乳がん検診従事者講習会及び症例検討会について

令和5年夏に中部で行うこととなった。講師の選定等は田委員に願いますこととなった。

2. 乳がん検診一次検査医療機関及び精密検査医療機関登録更新について

鳥取県乳がん検診一次検査医療機関及び精密検査医療機関登録については、3年に一度更新を行うこととなっており、現行の要綱どおり、今年度中に更新及び新規登録することとして了承を得た。

また、登録届出書に検診中または検診後に重篤な偶発症を確認したか記入する欄を設け、県内の偶発症の有無の把握を行う。

3. がん検診の利益・不利益について

令和3年10月1日に国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、「がん検診の対象者自身が、がん検診の利益・不利益を考慮した上で受診を検討することが望ましい」との記載が追加された。本県でも、各がん検診実施の手引きにこの旨を追加するため、令和3年度の各部会において協議している。今回示しているのは、市町村等が普及啓発のための広報素材として活用するためのものである。今後周知していくにあたり、がん検診の利益・不利益の具体的な説明内容について協議した。

〈協議内容〉

- ・乳がん検診時の偶発症についての記載も入れるべきである。
- ・偶発症の例としては、乳房X線検査では、乳房を圧迫するので、皮膚のトラブルを生じることがあること、検診時の痛みで迷走神経反射を起こし倒れる人がいることである。
- ・ペースメーカー等が入っている方、豊胸術をされた方、乳房再建術をされている方は原則検診できない旨も追加して欲しい。
- ・全体的な記載ではなく、それぞれの検診によって作成した方が良いのではないか。
⇒今後各部会で検討していき、全体的な内容とするか、各部位ごとの内容とするか決めていく。

4. 第4次鳥取県がん対策推進計画の策定について

平成30年を始期とする現在の「第3次鳥取県がん対策推進計画（期間6年間）」は、令和5年度に計画期間が終了することから、令和4年度から令和5年度にかけて次期計画の内容を検討していく。「鳥取県がん対策推進県民会議」を中心として検討を行っていく予定であるが、健対協にも対策の必要な項目や設定すべき個別目標等について、ご意見を伺いたいとのことであった。今後、健対協で素案を示す際は、資料を各委員へ送り、事前に見ていただくようにする。

また、現在の問題点として、県内の専門医が少ないことが挙げられる。対策として、特別養成枠の先生方の診療科が限定されており、そこに外科系も入れてもらえるよう、働きかけている。

5. その他

(1) 東部地区は令和4年度から集団検診及び医療機関検診の読影を読影会でやっている。それにより、1回の読影会の読影件数が増加しているので、読影謝金の見直しを行って欲しいとの意見があった。今年度は初年度ということもあり見通しがつかず読影謝金を据え置きとしていたが、令和4年度の決算を参考にしながら、令和5年度の予算作成時に読影謝金の値上げ検討を行っていく。

(2) 「鳥取県乳がん検診マンモグラフィ読影委員会運営要領」に基づき、検診実施機関は、前回のフィルムを所有する場合は、比較読影のためのフィルムの提出をして読影を行うこととなっているが、提出されていない実施機関がある。受診者の不利益に繋がりにくいので、健対協から、検診実施機関に要領に沿った実施を行ってもらおうよう、願います。

報告事項

1. 令和3年度乳がん検診実績最終報告並びに令和4年度実績見込み及び令和5年度実施計画について

〈県健康政策課調べ〉：坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

〔令和3年度最終実績〕

令和3年度対象者数109,121人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数17,631人、受診率16.2%で、令和2年度より2.1ポイント増加した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数36,251人、受診者数12,236人、受診率33.8%であった。

要精検者数1,108人、要精検率6.28%で前年度より0.49ポイント減少した。精検受診者数1,050人、精検受診率は94.8%で、令和2年度より0.6ポイント減少した。

精検の結果、乳がん78人、がん発見率（がん／受診者数）0.44%、陽性反応適中度（がん／要精検者数）7.04%であった。令和2年度に比べ、がん発見率は0.15ポイント、陽性反応適中度は1.7ポイント減少した。

要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度において国が示す許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

また、昨年度の冬部会において偶発症の具体的事例を知りたいとの意見があり、各自治体に聞き取りしたが、計上間違いや具体的事例を教えてもらえなかったため、来年度も引き続き確認していく。

令和2年度地域保健・健康増進事業報告によると、鳥取県における乳がん検診受診者数について、受診歴別に見ると、初回5,199人、非初回14,053人であった。がんであった者は、初回37人、非初回31人であった。

〔令和4年度実績見込み及び令和5年度計画〕

令和4年度実績見込みは、対象者数109,385人、受診者数18,403人、受診率16.8%で、前年度並の見込みである。令和5年度実施計画は受診者数19,537人、受診率17.9%で計画している。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：宮脇委員

- ・令和3年度実績は住民検診受診者数7,146人で令和2年度より619人増加した。受診者総数・初回受診者数ともに例年と比べると増加しているが、前年度はコロナ禍における受診控えがあり多少受診者の戻りがあったと考えられる。
- ・要精検率6.0%、がん発見率0.32%、陽性反応適中度5.36%。
- ・乳がん32例で前年度より10例減少、がん発見率は2.73ポイント増加した。
- ・そのうち、初回受診での発見乳がんは6名、病期Iでの発見が13例と半数以上を占め、病期IV以上の発見はなかった。
- ・MMGカテゴリー別では、C-3からの発見が10例、C-4で10例、C-5が3例であった。C-5からの発見乳がんは60%であった。
- ・年齢階層別では70～74歳での発見が多かった。

2. 令和4年度乳がん検診マンモグラフィ読影委員会開催状況

令和4年度各地区読影会実施中間報告（12月末）は以下のとおりである。

東部（山口委員長）－鳥取県保健事業団を会場にして、週2回読影会を開催している。今年度から集団検診分及び医療機関検診分の読影を読影会で実施しており、読影会回数及び読影件数が増加している。

①読影会開催回数148回、②読影総数5,716件（うち集団検診分2,833件、医療機関検診分2,883件、③医療機関検診分のうち比較読影2,302件（79.8%）

中部（大田委員）－中部読影会場にて、週1回読影を行っている。

①読影会開催回数29回、②読影総数758件、③うち比較読影522件（68.87%）

西部（鈴木委員）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行っている。

①読影会開催回数47回、②読影総数1,231件、③うち比較読影1,038件（84.32%）

症例検討会は2月に開催する予定である。

〔読影結果〕

	CAT1	CAT2	CAT3	CAT4	CAT5	判定不能
東部	94.17%	1.39%	4.09%	0.28%	0.07%	
中部	87.60%	6.73%	5.01%	0.53%	0.13%	
西部	82.70%	9.91%	6.50%	0.49%	0.16%	0.08%

3. 令和3年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果について：山口委員長

- ・令和3年度の乳癌確定症例は80例であった。前年度の96例に比較して減少していたが、例年並みであった。中部地区での発見症例がやや増加していた。
- ・発見痛患者の平均年齢は64.8歳で前年度とほぼ同様であった。60歳代の患者が最も多いが、初めて70歳代が最も患者数の多い年代となった。2019年の国立がんセンター統計では、罹患率は45歳から急上昇となるが、70～74歳の罹患率がピークとなっており、本県のデータもそれを裏付けるのものかもしれない。
- ・検診受診歴に関しても前年度と同様で、経年受診者が多く、経年受診者では早期癌の割合が多かった。
- ・病期に関しては65.0%が早期癌症例であり、前年度の66.7%とほぼ同様であった。40歳代の初回受診者からStageIV症例が1例認められた。
- ・術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が34%であり、近年この比率が続いている。

4. 新型コロナウイルスのがん検診等への影響について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

令和元年度から3年度を受診者数、受診率を市町村ごとに比較し、市町村へ聞き取り調査を行った。医療機関検診では、他部位に比べて受診制限等の影響はなかったが、令和2年度はコロナによる受診控えが一定数あった。令和3、4年度にかけて受診率が回復傾向にある。乳がん検診は隔年受診であることから、コロナ禍以前から、受診率の上下がある市町村も複数ある。近年、集団検診のニーズが減り、医療機関検診へのシフトがみられるため、集団検診の見直しをしている市町村がある。中部地区は個別検診実施医療機関が少ないため、年の前半に医療機関で他がん検診を受診し、受けられなかった乳・子宮がん検診を年後半に集団検診受診する方もいる。これにより、年後半に集団検診の予約が集中し、予約を入れられない場合もある。

また、乳・子宮がん検診は職場検診で受診できない場合があるため、令和3年度に町内の事業所を訪問し、がん検診受診を呼びかけた自治体では、受診率の回復傾向がみられる。

令和2年度はコロナ禍の影響により送迎バスの運行がほぼできず、令和3年度運行再開したことにより、受診者が増加した町もあった。

5. 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

令和3年4月から妊孕性温存療法の実施について患者からの臨床情報を収集し研究を促進するとともに、治療に要する患者の経済的負担を減らすため、がん患者等が原疾患治療前に実施する未受精卵子、胚（受精卵）等の凍結保存に係る費用を、国の実施要綱に基づき助成している。また、がん等治療後の生殖補助医療について、令和4年

4月から不妊治療が保険適応となったが、がん患者等が原疾患治療前に凍結保存した検体を用いた生殖補助医療（保存後生殖補助医療）は保険適応外となるため、本事業による助成を開始している。本県の指定医療機関は3施設ある。令和3年4月～令和4年12月末までの助成状況は、未受精卵子凍結3件、胚（受精卵）凍結保存2件、未受精卵子を用いた生殖補助医療1件である。

6. その他

(1) 75歳未満がん年齢調整死亡率等について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和3年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。

鳥取県の男女計の死亡率は、令和3年は68.1（前年68.6）で28位（前年23位）となり、2年連続で、県がん対策推進計画の目標値（令和5年死亡率70.0未満）を達成した。鳥取県は母数となる人口が少なく死亡率の変化が大きくなる傾向があるので、今後も推移を注視している。

女性の死亡率は50.3（前年48.4）で前年全国6位から11位。

乳がんの死亡率は6.3（前年8.6）で、前年の全国10位から1位に改善した。

(2) 共通資料から：上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

○平成31年（令和元年）の全国がん登録のデータに基づくがん罹患の状況（令和4年5月公表）

平成31年に新たにがんと診断された患者は全国で999,075人、鳥取県で5,161人（平成30年5,001人）。

人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国で387.4。鳥取県は411.5（44位：ワースト4位）（平成30年411.0 47位：ワースト1位）。

部位別にみると、男女計：①胃②大腸③肺④前立腺⑤乳房の順で罹患数が多くなっている。

○国民生活基礎調査による飲酒率、喫煙率、平成

28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、歩数、野菜摂取量）は、コロナの感染拡大により調査が中止となっており、昨年と同じデータである。

（3）県の来年度当初予算について：上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐
ほぼ例年どおりの予算を計上しているが、安心して暮らせる社会づくり（患者支援）事業の中

の、医療用ウィッグ・補正下着等の購入費用の助成では助成上限額を2万円から5万円に引き上げる。

また、疾病構造調査研究事業で行っている「健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げについて」の研究で、FIB-4インデックスが高リスク（2.67以上）の方に対して年2回の定期検査の受診勧奨を行っているが、令和5年度から検査費用の助成を行う予定にしている。

乳がん検診従事者講習会

日 時 令和5年1月28日（土）
午後4時～午後5時30分

現地参加 〈会場〉鳥取県健康会館
（鳥取県医師会館）鳥取市戎町

オンライン参加

※大雪の影響により、急遽ハイブリッド開催に変更した。

出席者 23名（健康会館：10名、オンライン：13名）（医師：23名）
岡田克夫先生の司会により進行。

講演

鳥取市立病院外科診療局長 小寺正人先生の座長により、岡山大学病院乳腺・内分泌外科准教

授 枝園忠彦先生による「臨床試験から考えるDCISの治療戦略」の講演があった。

第29回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会乳がん部会会長 廣岡保明先生の司会により3症例を報告して頂き、検討を行った。

- 1) 東部症例（1例）：鳥取市立病院
小寺 正人先生
- 2) 中部症例（1例）：鳥取県立厚生病院
大田里香子先生
- 3) 西部症例（1例）：鳥取大学医学部附属病院
若原 誠先生